

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月28日現在

機関番号：33605

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520205

研究課題名（和文） 真田文書アーカイブの構築及び松代藩第六代藩主真田幸弘の点取俳諧に関する研究

研究課題名（英文） Study on haiku take points Yukihiro Sanada Matsushiro sixth feudal lord and construction of Sanada document Agaibu

研究代表者

玉城 司（TAMAKI TUKASA）

清泉女学院大学・人間学部・教授

研究者番号：20410441

研究成果の概要（和文）：松代藩第六代藩主・真田幸弘の文芸について調査研究した。幸弘が一座した点取俳諧資料九万句の内、約三分の一の三万句を翻刻して、その一部を研究成果として作成したホームページ「松代藩第六代藩主真田幸弘の文藝」に写真と共に掲載した。これは、語彙索引機能を備えているので、点取俳諧資料として利用できるだけでなく、江戸時代の語彙を検索することができる。なお、ホームページは、幸弘の全体像を理解できる構造にした。

研究成果の概要（英文）：I did research for literature of Matsushiro han sixth feudal lord Sanada, Yukihiro. Yukihiro reprinted 30,000 of 90,000 Tentori Haikai data which acted as the whole company of about 1/3, and posted with the photograph on the homepage "sixth generation of Matsushiro han local lord Yukihiro Sanada's Literature" which created the part as the result of research. Since this is equipped with the glossarial-index function, it not only can use as Tentori Haikai data, but it can search the vocabulary of the Edo period. In addition, the homepage was made into the structure where he can understand Yukihiro's global image.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：日本近世文芸

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：デジタルアーカイブ 大名文藝 真田宝物館 点取俳諧 真田幸弘

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成17年度～平成19年度科学研究基盤研究（B）「近世中・後期松代藩真田家代々の和歌・俳諧・漢詩文及び諸芸に関する研究」（課題研究番号 17320040 基盤

研究（B）研究代表者井上敏幸）の研究成果によって明らかになった松代藩の和歌・俳諧・漢詩文に及ぶ文芸活動の研究を継承する。

2. 研究の目的

(1) 松代藩の文芸活動を横断的に精査・体系化し、文芸活動のピークを見せる第六代藩主真田幸弘から第八代藩主真田幸貫にいたる大名家の文芸活動の歴史的展開を明らかにすることによって、大名家の文芸活動の歴史的社会的政治的意味合いについても視野に入れつつ、従来等閑視されてきた大名文芸を日本近世文学史上に定位することを目的とする。

3. 研究の方法

資料調査と整理、翻刻を主とした。

(1) 賀茂真淵に添削指導を受けた宝暦期から、堂上歌人日野資枝門人となる寛政五年を経て晩年にいたる詠歌活動を国文学研究資料館と真田宝物館所蔵の資料から明らかにする。詠歌活動については、第八代幸貫まで堂上歌壇との関係強化により発展的に継承されている。また、詠草は当主のみではなく、色紙・短冊なども含め、大名やその家臣や一族・子女、庶民のものも残されており、それらの全容を整理し、大名家の和歌の文学的社会的政治的意義を明らかにする。

(2) 第六代藩主真田幸弘の俳諧活動の全貌を把握する。真田宝物館には、幸弘（俳号菊貫）が一座した俳諧資料が多数伝来しており、俳諧資料だけで言えばその点数は、国内最大である。すなわち点取俳諧百韻800巻（8万句）・高点付合集・高点句集・俳諧発句集等多に都合10数万句ほどが伝来する。点取俳諧集は『菊の分根』（十七冊）、『菊島』（百五十五冊）、『宗匠一万句』などに収載されており、半世紀に及ぶ幸弘の俳諧活動を明らかにするために、収載されている俳諧資料を年次別に整理して翻刻する。先行研究では、紀行『旅つづら』や『青葉陰』などの一部の資料と『菊の分根』『菊島』の書誌情報と発句及び脇句と連衆及び点者等など俳諧集の概容のみが明らかにされた。

本研究では、その研究成果を受け継ぎ、真田幸弘の俳諧活動の全容を確認した上で、以下の点について明らかにして、俳諧史の見直しを図った。真田幸弘の点取り俳諧活動の実態を精査することにより、俳諧の開催状況・俳諧記録の編纂過程・点者や連衆となっている俳諧師の交友関係を調査し、大名家の俳諧活動の政治的社会的文学的意義を明らかにする。また、幸弘が編纂した俳諧紀行『青葉陰』や、高点付合集・高点句集・俳諧発句集等から明らかとなっている真田幸弘の発句

千三百句からうかがうこのできる幸弘の俳風を明らかにし、俳諧師菊貫を俳諧史上に位置づける。

(3) 明暦期から寛文期における『一万聯句集』に代表される歴代松代藩主の漢詩文創作の伝統を受けついで漢詩文創作活動について考察する。漢詩文に関しては、真田家では最も早くから行われ、幕末にいたるまで最も長く連続して行われた文芸活動という点で重要であるが、その実態はいまだ不分明である。本研究では、俳諧連歌と連動したかたちで行われた漢和聯句も含めて、真田家の漢詩文文芸の全容を明らかにし、儒学思想や藩政との関わりの中で大名家における漢詩文の重要性について解明する。

また、真田文書は、長野市松代の真田宝物館と国文学研究資料館史料館に保存されている。どちらもデータベース化が行われておらず、両者の総合的な調査は依然として行われていない。質量ともに国内最大規模の歴史的文学的資料の全体像を把握するための調査も併せて行う。

以上、和歌、俳諧、漢詩文についての真田家の文芸活動の実態について歴史的視点を導入しつつ明らかにすることが本研究の目的である。

4. 研究成果

(1) 松代藩六代藩主の真田幸弘（真田宝物館-長野県長野市に襲蔵）の点取俳諧資料と幸弘関連の公的日記のデータ化をめざして、ホームページ「松代藩第六代藩主 真田幸弘の文藝」を立ち上げた。

ホームページは、一般向けに「真田幸弘について」「賀集」「点取俳諧」「俳諧一枚摺」「発句集・追善句集」「和歌集」「紀行」「書道」「日記」「参考文献」（作成中）で構成した。大名俳諧になじみがない研究者にとっても、有益である。また「点取俳諧」資料は、写真データと翻刻データを掲載して、語彙機能を付した。俳諧研究者ばかりか、日本近世（江戸時代）の研究者にとっても有益である。

(2) 点取俳諧（百韻）は、総数約九万句のうち、3万句を翻刻、データ化した。日記（御側御納戸日記）は、約3年分の翻刻データを点検した。このうち、235件（百韻連句235巻）を上記ホームページに掲載した。

(3) 3年間、原則として毎月第3木曜日に「真田連句を読む会」を実施して、市民とともに点取俳諧資料を解説した。1回で、百韻の半分(50韻)ずつ解説した。当初、くずし字を読むことが危うかった市民もいたが、真田連句解説を通して、読解能力を身に着け、当時の風俗、社会状況、歴史的背景を考察できるようになった。

(4) 真田フォーラムを真田宝物館と共催して、3年間実施、広く市民にも研究成果を公表した。

2010年は8月19日(木)「大名俳諧と真田幸弘の俳諧」のテーマで講演会とディスカッションをした。幸弘と同時代の大名で俳諧を楽しんだ大和郡山藩二代藩主柳沢信鴻(のぶとき)、出羽鶴岡藩七代藩主酒井忠徳(ただあり)、熊本藩六代藩主細川重賢(しげかた)などとの比較を通じて、幸弘の俳諧の特徴について知り、「文の真田」の位相を明確にした。20日(金)は「真田家伝来の典籍」のテーマで講演会を開催、国文学研究資料館に伝来する真田家の蔵書目録の分析を通じて、文藝資料がどのように伝えられてきたかを研究、21日(土)真田家の菩提寺・長国寺踏査。

2011年は8月18日(木)「大名俳諧と点取俳諧」「真田連句(百韻)の読み方」のテーマで、具体的な連句の読み方を広く市民にも伝え百韻で使われている言葉を検討して、大名が庶民の生活上で使う言葉を熟知していたことが話題になった。

2012年は9月8日(土)「江戸座点取俳諧の意匠一点印と大名文化圏をめぐって」「真田文書アーカイブ化について」で講演会を開催した。点印は、普通は俳諧宗匠が、点数をつけるために、使う印鑑だが、幸弘は自ら「宗匠」を自称したらしく、三十種近くの点印をもっていた。その意匠からみると、陶淵明などの隠逸を志向する詩句を篆刻したことが分かった。アーカイブ化は、研究成果を全世界に向けて発信することであり、全体のまとめと今後の見通しについて研究者ばかりか市民の方も学び、考える機会とした。

なお、これらの成果を示す「真田フォーラム報告書」を毎年作成した。

この他に、3年目に真田宝物館が、本研究成果を生かして「文人大名 真田幸弘とその時代」点を開催して、図録を発行した。それには、本研究代表の玉城 司が、常陸国(茨城県)土浦藩第四代藩主土屋篤直(あつなお)の母(佐藤長右衛門の娘か)の七十歳を祝う祝賀集『松友雅友』を翻刻紹介した。また、

研究協力者の伊藤善隆が「真田幸弘と大名俳諧」の論文を寄稿して協力した。

真田は武のイメージが強いが、文の真田、文武両道にすぐれた真田のイメージを形成する上で有効であり、研究の裾野を広げたことも成果のひとつと言えよう。

(5) 講演 2010年9月25日(土)

研究代表者の玉城 司が和漢比較文学会(於信州大学教育学部)で「松代藩六代藩主真田幸弘の文藝-漢詩・和歌・俳諧-」のタイトルで講演。幸弘と大名圏の文藝活動を通して、今後大名文藝を研究して行くことで、新しい俳諧史・文学史が見えてくる可能性を示唆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

①玉城司、小幡伍、平林香織、「松代藩第六代藩主真田幸弘点取俳諧『きく島』の紹介と翻刻」平成22年3月『清泉女学院大学人間学部研究紀要』第8号

②玉城司、小幡伍、平林香織、「松代藩第六代藩主真田幸弘点取俳諧『きく島』の紹介と翻刻(1)」平成22年3月『長野県立短期大学紀要』65号

③玉城司、小幡伍、平林香織、「松代藩第六代藩主真田幸弘点取俳諧『きく島』の紹介と翻刻」平成22年6月『近世文芸 研究と評論』(早稲田大学)80号

④玉城司、小幡伍、平林香織、「松代藩六代藩主真田幸弘の文藝」平成23年2月『和漢比較文学』46号、「翻刻『喜久の分根』平成23年3月『松代』松代』24号

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

平林香織「松代藩主・真田幸弘の文芸活動—和歌と俳諧」(錦仁編『中世詩歌の本質と連関』(竹林舎)平成23年4月

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

「松代藩第六代藩主 真田幸弘の文藝」

<http://kikutsura.com/>

真田文藝研究会を発足

真田宝物館には、書画、古典籍、和歌集、俳諧集、日記、手紙など、文の真田の側面を伝える2万点以上の史料が伝来している。また、廃藩置県の頃、真田家の典籍の多くが国文学研究資料館（立川市）の寄託保存史料として移管し現在に至っている。

貴重な文化遺産ともいべきこれら真田家の文藝資料を、周辺資料にも目配りしながら、文学的・歴史的・社会的・政治的・経済的視点に立って研究するための会として発足した。

文学的・言語学的・歴史的な資料ともいべき真田文藝資料を広く世に知らせ、次世代に発展的に継承していくことも行っていく目的で設立し、上の主旨に賛同する方誰でも入会できるように研究の裾野を広げた。

実際に20代30代の入会者があり、今後さらなる発展が望まれる。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

玉城 司 (TAMAKI TUKASA)

清泉女学院大学・人間学部・教授

研究者番号：20410441

(2) 研究分担者

平林 香織 (HIRABAYASHI KAORI)

岩手医科大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：50300132